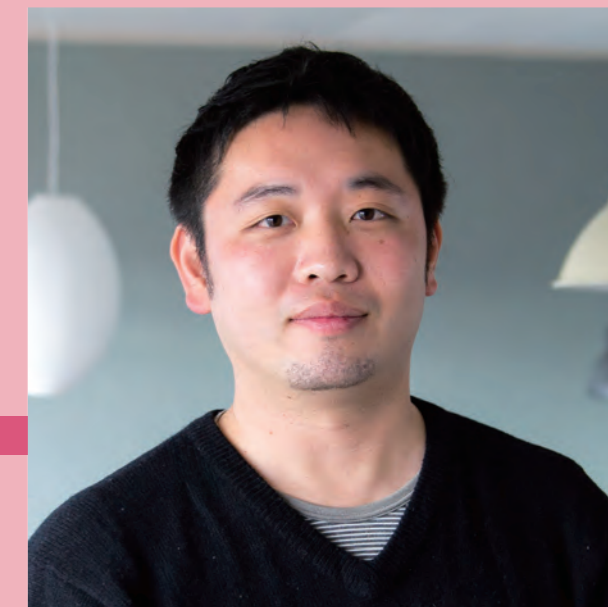
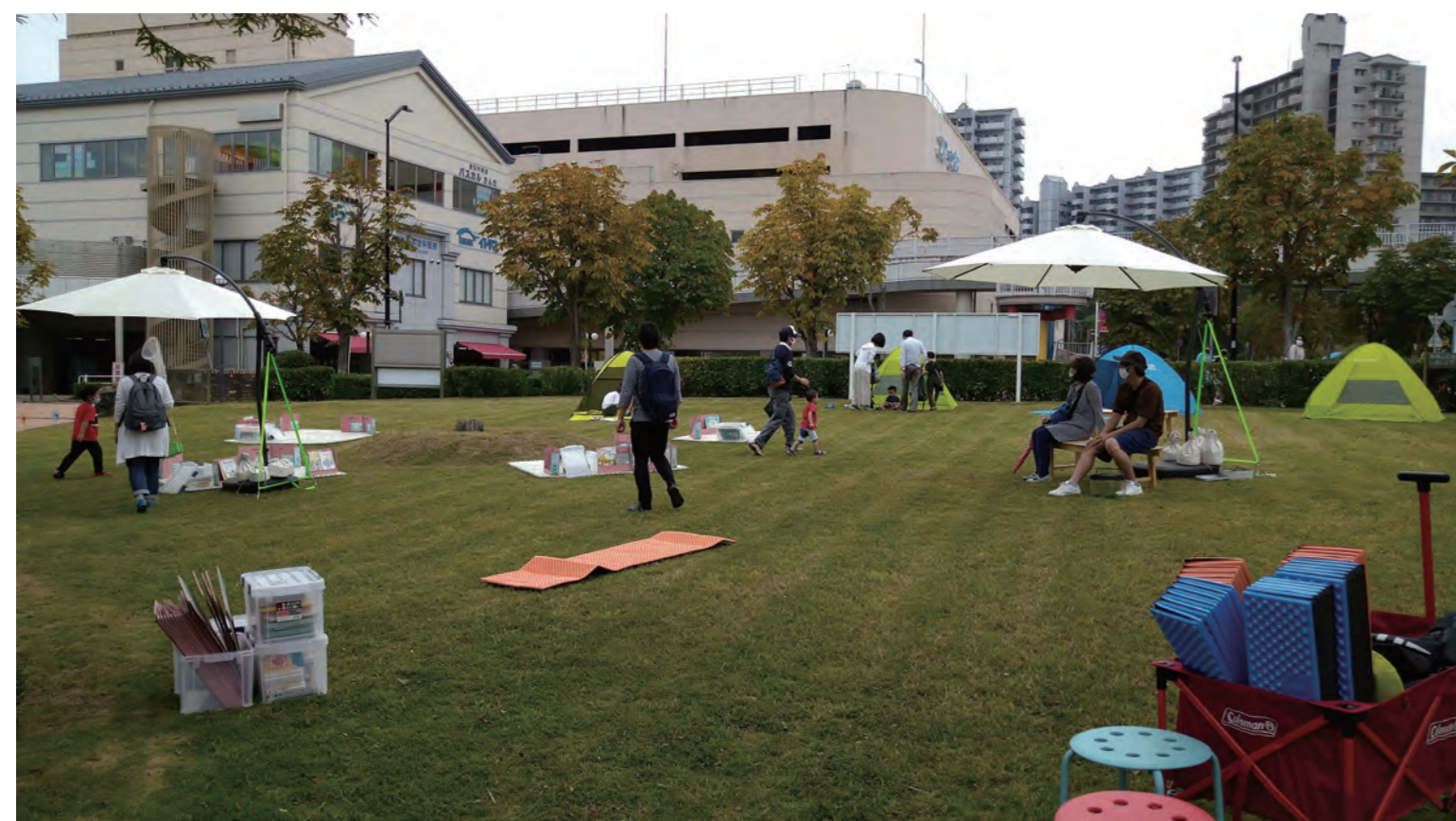


ニュータウンにパブリックスペースを作り出す ～風景を連鎖させる。「そとはく」の取り組み～



自然・環境マネジメント研究部 環境計画研究グループ 福本 優



博物館のエントランスにある芝生広場で「そとはく」

使ったらだめだと感じられやすい、パブリックスペース

「公園」と名前が付くと、多くの人利用しやすく感じる事が出来る芝生広場などのパブリックスペースですが、名前がないけれど、実は多くの人が使え場所だけど、「誰も使っていないし、誰に許可を取ればいいのか分からない」場所が、実は社会にはたくさんあります。ニュータウンにはそんな場所が多くあり、外が広いけど、少し寂しい感じが生まれています。楽しく外で遊ぶ風景が見える生き生きとした次のニュータウンの姿を作り出す実験「そとはく」を実施しています。

「そとはく」は、みんなで外を使ってみる実験。風景で、みんなが使えることを伝える。

「そとはく」では、外を使ってみる風景を生み出すことで、その場所が使えることの認識を持っていただくことを目指しています。それに気付いた人たちが、それぞれに利用し、その利用が重なり連鎖することで、生き生きとした風景がニュータウンに生まれることを目指しています。三田市の子育て支援施設「ふらっと」さんとも協働し、今では毎週、その風景が生まれ、少しずつ連鎖が拡がり始めています。

左) 自然を使ったビンゴで、外遊びを楽しむ子

右上) 「ふらっと」さんと協働し、小さな子が遊べる場所として使ってみる

右下) 「ふらっと」さんと使ってる様子を見た人たちが自由に芝生を使い始めた！

